# ふじしょうだより

**～ひびき合い　ともによりよく生きる～**

令和5年8月31日
9月号
横浜市立藤が丘小学校

学校 HP

## 「『防災』を語り合う」

校　長　　齋　藤　　千　枝

この夏には、久しぶりに地域のお祭りが行われ、子どもたちの弾ける笑顔、行き交うたくさんの方々の笑顔がとてもすてきで心に残っています。

また、この夏には台風６号、７号がきました。連日の猛暑といい、天候・自然への畏怖を感じずにはいられませんでした。台風にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

猛暑・水害・震災・暴風・津波・・あらためて私たちは様々な天候・災害に対しての心構え、約束、物品の備えが必要なのだと思います。

今から５年前の 2018 年６月 18 日７時 58 分頃、大阪府北部で起きた震度６弱の地震。

このとき、私は、新幹線の中でした。あと 2、３分で京都に着くというところでの地震。トンネルの中で電気が消え、急減速で新幹線が止まり、携帯電話から緊急地震速報のサイレンが一斉に鳴り響き、何が起きたのか少しの間わかりませんでした。人は、緊急事態が起きたときに「大丈夫だろう」という心理が先に働くということを耳にしたことがあります。私もこのとき「すぐに動くだろう」という安易な気持ちが先にきました。しかし、停電後の影響はすぐに出始めました。窓が開かないので、車内はすぐ蒸してきました。トイレも使えません。新幹線は電気で動いていることを実感しました。ここで「この先、どうなるのだろう。」という不安感が生まれてきました。ただ、30 分ほどで電気が復旧したのです。ほっとしました。災害時は、電気を１分１秒でも早く復旧させることと、停電したときの備えが大事だということを思いました。けれど、新幹線はまだ動きません。ようやく流れてきた情報は「お昼過ぎ」・・４時間以上待つことになったのです。私の隣にいた方が気になりました。新神戸まで行く大学生でした。食べ物をあまり持っていなかったようなのでお菓子をあげたことをきっかけに、いろいろなお話をして４時間を過ごしました。「待つ」だけの不安な４時間が気持ち的にとても軽くなりました。コミュニケーションを取ること、出かけるときは多めの水と食料を準備しておくことの大切さも感じました。

まさか自分がこの地震に巻き込まれるとは思いもしませんでした。それも新幹線の中でとは・・でも巻き込まれたのです。そう考えると、日頃の災害への心構え、準備のスキルをもっと上げていかなければと思いました。

学校でもあらゆる想定を考えて、子どもたちの「安全・安心」を守ろうと指導、訓練を行っています。しかし「これでいい」のではなく、常に危機意識をもち、職員、そして保護者の方や地域の方と語り合うことを大事にしていかなければならないと思います。

『総合的な学習の時間』で防災について学習するクラスもあるようです。子どもたちはどんなことを知り、考え、語り合い、活動していくのでしょうか。

また、今年は関東大震災から 100 年が経ちます。ご家庭でも、お子さんといっしょに防災について語り合ってみませんか。